

# 日本福音ルーテル名古屋めぐみ教会 主日礼拝式文(短縮版)

聖霊降臨後 第 8 主日礼拝(緑)

2021/7/18

(鐘の音)

1. 初めの歌 『教会讃美歌』 187 番 (1,2節)

2. み名による祝福

司) 父と、子と、聖霊のみ名によって 会) アーメン

3. 罪の告白の勧め

4. 罪の告白

司) 父なる全能の神よ。

会) 私たちは生まれながら罪深く、けがれに満ち、思いと、ことばと行ないによって多くの罪を犯しました。私たちはみ前に罪をざんげし、父なる神の限りない憐れみにより頼みます。

5. 赦しの祈願祝福

会) アーメン

6. キリエ

司) 主よ、憐れんでください

会) 主よ、憐れんでください

司) キリストよ、憐れんでください

会) キリストよ、憐れんでください

司) 主よ、憐れんでください

会) 主よ、憐れんでください

7. グロリア (言葉に意識を向けて、語るように言葉を唱えましょう)

司) 天には栄光、神に

会) 地には平和、み心にかなう人に

斉唱) 主をあがめ 主を仰ぎ、主を拝み 主をたたえます。

主なる神 天の王 全能の父よ、主の大いなる栄光に感謝します。

主イエス・キリスト、神のひとり子、

父のみ子、神の小羊、世の罪を取り除く主よ。

私たちが憐れんでください。私たちの祈りを聞いてください。

父の右におられる主よ、私たちが憐れんでください。

聖にしてただひとりの主、いと高きキリスト。

主は聖霊と共に、父なる神の栄光のうちに。アーメン

8. 特別の祈り

ちから あわ かみさま ひつじか わたし やしな まも みこ  
力と憐れみの神様。あなたは羊飼いとて私たちを養い守ってくださいます。御

せいぎ へいわ わたし ひとりひとり いや ひと たみ  
子の正義と平和をもたらすために、私たち一人一人を癒し、一つの民としてくだ

さい。救い主、主イエス・キリストによって祈ります。アーメン

9. ハレルヤ唱

10. 福音書朗読

マルコによる福音書 6 : 30 — 34, (p.72/84)  
53 — 56

11. 説教

12. 感謝の歌 『教会讃美歌』 410 番 (1,2節)

13. 信仰の告白(使徒信条)

全) 天地の造り主、全能の父である神を私は信じます。

そのひとり子、私たちの主イエス・キリストを、私は信じます。主は聖霊によってやどり、おとめマリヤから生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、陰府に下り、三日目に死人のうちから復活し、天に上られました。そして全能の父である神の右に座し、そこから来て、生きている人と死んだ人とをさばかれます。

聖霊を私は信じます。また聖なる公同教会、聖徒の交わり、罪の赦し、からだの復活、永遠のいのちを信じます。アーメン

14. 奉献・奉献の祈り (聖餐式がある時は、別紙の「聖餐式」の式文へ)

15. 教会の祈り 会) アーメン

16. 主の祈り

全) 天の父よ。

み名があがめられますように。

み国が来ますように。

み心が天で行なわれるように、地上でも行なわれますように。

私たちに今日もこの日の糧をお与えください。

私たちに罪を犯した者を赦しましたから、

私たちの犯した罪をお赦してください。

私たちが誘惑から導き出して、悪からお救いください。

み国も力も栄光も とこしえにあなたのものだからです。アーメン

17. 祝福

司) 主をたたえよう

会) 神に感謝します

司) (祝福)

会) アーメン

18. 派遣の歌 『教会讃美歌』 328 番

## 聖書日課

第一の朗読	エ レ ミ ヤ	23 : 1 — 6	(p.1218/1411)
賛美 唱	詩編	23 : —	(p.854/987)
第二の朗読	エ フ ェ ソ	2 : 11 — 22	(p.354/410)

福音書朗読	マルコによる福音書	6 : 30 — 34, 53 — 56	(p.72/84)
-------	-----------	-------------------------	-----------

さて、使徒たちはイエスのところに集まって来て、自分たちが行ったことや教えたことを残らず報告した。イエスは、「さあ、あなたがただけで人里離れた所へ行つて、しばらく休むがよい」と言われた。出入りする人が多くて、食事をする暇もなかったからである。そこで、一同は舟に乗って、自分たちだけで人里離れた所へ行つた。ところが、多くの人々は彼らが出かけて行くのを見て、それと気づき、すべての町からそこへ一斉に駆けつけ、彼らより先に着いた。イエスは舟から上がり、大勢の群衆を見て、飼い主のいない羊のような有様を深く憐れみ、いろいろと教え始められた。

(53節)： こうして、一行は湖を渡り、ゲネサレトという土地に着いて舟をつないだ。一行が舟から上がると、すぐに人々はイエスと知って、その地方をくまなく走り回り、どこでもイエスがおられると聞けば、そこへ病人を床に乗せて運び始めた。村でも町でも里でも、イエスが入って行かれると、病人を広場に置き、せめてその服のすそにでも触れさせてほしいと願った。触れた者は皆いやされた。

## 礼拝でのお願い

- 感染症の拡大予防のため、短縮版の式文で行います。
- 礼拝中は、着席とマスク着用をお願いします。  
(マスクをお持ちでない方は、役員までお申し出ください)
- 賛美歌やグロリアは、語るように言葉を唱えてください。  
心の中で唱えても構いません。  
大声では歌わないように、ご配慮をお願いします。